

# 2025 海外遠征 レポート

小西陽人

## 【はじめに】

2025年度の最大の目標である「WAVE種目 U-18 BOYS 世界ランキング3位以上」を達成するために、世界大会出場と練習を兼ねて、6月中旬～8月中旬にかけてグラン・カナリア諸島に海外遠征に行ってきました。グラン・カナリア島、フェルテベンチュラ島、テネリフェ島の三つの島に行き、良い環境下で練習してきました。

## 【Gran Canaria World Cup(7/5～7/13開催)】

一つ目の大会は、Gran Canaria World Cup(Wave種目)です。  
世界最高峰とも言われるこの大会は15m/s～20m/sの爆風の中開催されました。



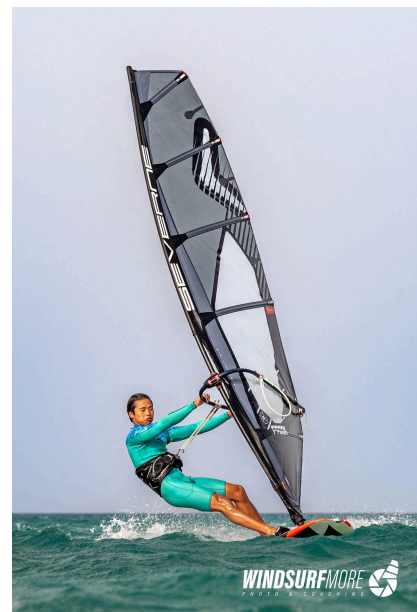
U-18 BOYSクラスとプロクラス(年齢分けのないクラス)の二つに出場しました。世界大会でのプロ戦は初めてで学ぶことが多くありました。この大会は非常にレベルが高く、一回戦から強い選手と戦うことになります。初めて出場する私にとっては、緊張する場面が多かったですが、その中でも自分なりに良いパフォーマンスを発揮できたと感じています。特に、昨年は試合中に一度も成功させることのできなかったバックループ(波を使って後ろに回転するジャンプ技)をプロクラスの一回戦と敗者復活戦の両方で成功することができたことです。昨年この技に苦戦しました。練習中成功したものの、試合中に成功することはできず、さらには帰国前には形が崩れ、スランプに陥ってました。今年はその克服を目標に、バックループを含むジャンプの練習に力を入れまし

た。結果として無事に成功させることができ、バックループを自分の持ち技として大会に臨めるようになりました。

一方で改善点も多く残っています。技術は向上したのに結果が出なかったという点です(「U-18 BOYSクラス」: 昨年7位→今年: 9位)。ジュニアクラスの日には波がほとんどなく波を探すのが難しいコンディションでした。そのため、持ち技であったバックループをするジャンプ台もなく、ジャンプで高得点を取ることができず苦しい戦いとなりました。また、波乗りもうまくできず、波乗りのポイントが稼げず、敗退してしまいました。試合中に冷静に波待ちをして、大きな波をとることができませんでした。小さな波に乗ったもののうまく乗り継ぐことができず波乗りで高得点を得ることができませんでした。バックループではなく、フォワードループ(前回りの回転)合戦となり、ジャンプで差はつかなかったですが、波乗りで差がついた試合でした。波乗りの練習は行っていたものの、試合を通してまだ不十分であったと痛感しました。波の選び方や波乗りの難易度・完成度の低さなど、たくさんの課題を見つけることのできた大会でした。

## [Fuerteventura World Cup(7/18~7/27開催)]

二つ目の大会は、Fuerteventura World Cup(Freestyle種目)です。2025年度はWAVE種目で勝つことを主な目標としていますが、国内でWAVE・FREESTYLEの2種目のプロとして活動しているため、FREESTYLEの技術向上を目的に大会に出場しました。一回戦では、TOPプロの選手と対戦し、敗退。敗者復活戦では惜しくも敗退してしまいました。





FREESTYLEの世界戦は初めての出場でなかなか思うように自分の演技をすることができませんでした。初戦では、ほとんど技を成功することができず、大差での敗退となりました。敗者復活戦の相手は自分の完璧な演技をすることができれば勝てる可能性がありましたが、3点差で負けてしまいました。もう一つ技を成功させることができたら一回戦突破できてたと感じています。当時のコンディションは波、バックウォッシュが激しく、これまで経験のない海面での試合となり、思うように演技することができませんでした。国内外問わず、海面を選んで練習するのではなく、やりづらい海面など、多様な海面で練習する必要性を実感しました。

納得のいく順位ではありませんでしたが、3週間の滞在で大きく成長することができたと感じています。毎日10～15m/sの風が吹いている環境で練習することができ、新たに技を習得することができました。国内戦で戦う武器になる技を習得することができ、フェルテベンチュラ島での目標は達成することができました。

日本国内のFREESTYLEのレベルは非常に高く、国内戦で表彰台を狙うのは難易度が高いですが、3週間の滞在で習得した持ち技を武器に、さらに練習を積み、上位を狙っていきたいと考えています。

### [Tenerife World Cup(8/1~8/10)]

3大会の中で最も成長が見られた大会だと感じています。テネリフェ島では他の島に比べて風は弱く、波が綺麗なポイントで大会が開催されました。グラン・カナリア島では20m/s近く吹くのにに対し、テネリフェ島では10～13m/sの比較的弱めな風が吹きます。

Fuerteventura World Cupの4日後にTenerife World Cupが始まり、風にも恵まれなかったため、事前練習は1日しかすることができませんでした。また、定員超えとなり、私はプロクラスの世界ランクを保持していなかったため、プロクラスにはエントリーすることができず、

U -18 BOYSクラスに出場しました。Tenerife World Cupのオープニングセレモニーでは全選手が自国の国旗を持ちながら街を歩き、地元の方々に盛大に迎えてもらいました。



大会期間中も風に恵まれず、敗者復活戦は不成立となりました。一回戦では、日本人最年少のプロとして活動している杉僚真選手、Gran Canaria World Cupの優勝者であるJavier選手と戦いました。この試合での条件は、ジャンプが1つ、波乗りが2つカウントされるものでした。私はスタートと同時に大会中では初となる完璧なバックループを成功することができました。その後は波乗り集中し、Gran Canaria World Cupでの反省を活かし、冷静に波を見極め、大きな波で乗り継ぐことを意識しました。その結果、波乗りには5.25と4.38の合計9.83の点が付き、今まで最も点数が高い波乗りをすることができました。しかし、試合開始と同時に飛び、試合時間外と見なされたため、バックループがカウントされていませんでした。波乗りでは杉選手に勝っていましたが、ジャンプが0点になっていたのも、残念ながら一回戦で敗退してしまいました。詰めが甘く、試合で勝つには多くの課題があると感じました。順位は、5位/6位と非常に悔しい結果となりましたが、完璧なバックループに成功し、波乗りで過去最高得点を取れたことは良かったと感じています。

## 【最後に】

約2ヶ月の海外遠征を終えて、ウィンドサーフィンの技術面で大きく成長できたと感じています。毎日風が吹いている色々な海で練習することができました。また、ヨーロッパの国々から出場する同世代との交流やTOP選手の練習風景や生活を真近で見ることができ、様々なことを学ぶ良い機会になりました。技術面に限らず、親から離れ、自分たちで生活するという点でも、大きく成長できたと感じています。2025年度のは世界ランクは15位と残念ながら目標としていた「WAVE種目 U-18 BOYS 世界ランキング3位以上」を達成することはできませんでしたが、この目標を立てたことにより、多くのものを経験、得ることができました。これらは、これからの活動に大いに活かし、活躍していく糧にします。残る国内戦で上位を狙えるよう頑張ります。皆様のサポートなしではこの2ヶ月を過ごすことはできませんでした。本当にありがとうございます。今後とも小西陽人の応援をよろしくお願いします。

J-811 小西 陽人